

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、会員については会員、ファシリテーターについてはファシリテーター、新聞記者は新聞記者と記載しています。
- ・ NUMOの職員、ファシリテーターの方の氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

寿都町 対話の場（第13回）会議録

1. 日時：2022年11月15日（火）午後6時30分から午後7時57分
2. 場所：寿都町総合文化センター ウィズコム
3. 会議録

（1）開会・挨拶

○事務局（司会）

大変お待たせいたしました。皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、ただ今より寿都町対話の場を開催したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は15名ご出席を賜っております。ご多忙の中、どうもありがとうございます。

本日の会ですが、ほとんどの時間が自由討論ということになっておりますが、それに先立ちまして、NUMOから今の文献調査の状況と今後の見通しについて、情報提供を申し上げたいと思います。こちらは、資料を読みながら、ということでやらせていただきたいと思います。

その前にですが、私、今日こういう格好をしまして、寿都交流センターのオリジナルのウェアですけど、●●さんにご指導をいただきながら作らせていただきまして、本日、場内に居る寿都交流センターのメンバーは全員このブルーのウェアを着ております。後ほど自由討議の際も、いろいろ付箋にメモを取ったりなどということで、うちのメンバーが各テーブルのサポートに入りたいと思いますが、このブルーのウェアが目印になりますので、お気軽にお声掛けいただければと思います。

それでは、文献調査の今の状況と今後の予定と言いましょか、見通しについてです。奇しくも、2年前の2020年11月17日、明後日になりますけれども、文献調査が開始されております。今回、明後日で丸2年ということになりますけれども、特に2年だからということで、終わらなければならないとか、期限が決まっているとか、法令上あるいは制度上、なにかそういう取り決めが決まっているわけでもありません。おおよそ目安で「2年」ということを調査開始のときに申し上げておりますけれども、2年で何かサプライズが起こるということではありません。ですから、「丸2年だから」ということではなく、現在の状況を、現在のままお伝えするという主

旨になります。

現在、文献自体の収集については、概ね終了しております。そして、集めた文献につきまして、情報の読み解きと整理を進めているところでございます。また、これらの情報を用いて、これをどう評価するのか。文献調査段階の評価の考え方、この素案を現在作成しているところでございます。

ちょっと遡りますと、9月、2ヶ月前に開催されました、地層処分に関する国の審議会である放射性廃棄物ワーキンググループ、こちらの会議におきまして、透明性のある過程・プロセスの中で丁寧に評価をすることが重要である、ということから、地層処分技術ワーキング、技術で揉み込むワーキングを立ち上げまして、技術的・専門的観点から、この評価の考え方の素案、これについて議論をする、ということとなっております。この会合につきましては、今からそう遠くないうちに開催される予定と伺っております。NUMOの評価の考え方の案を地層処分技術のワーキンググループに説明するとともに、ワーキンググループにおいて揉み込む議論、これを踏まえながら評価の考え方の案に基づいて評価を進めていくということに、これからなっております。こういった、丁寧に手順を踏んで評価していくことは、我が国初の文献調査でありますので、調査の丁寧な進め方をやっていくということですので、毎回ご質問を頂きますと、理事の坂本ですが、回答申し上げておりますが、終わる時期、終了の見込み時期については、今の段階でも予断をもってご回答できる状態にはありません。ただ、今後も引き続きの対話の場などで、最新の状況をこのようにお伝えしていきたいということを考えてございます。

すみません、結果があるようでないような話になりますが、現在の文献調査の状況についてはそのような状況になってございます。ですので、これから技術的な見地を持ちながら揉み込む、評価のフローに入るという状況だ、ということでご理解賜ればと思います。

以上が現状のご報告になります。

続きまして、本題であります自由討議に入ってまいりたいと思います。

○会員

自由討議に入る前に、自由討議は非公開になりますよね。

○事務局（司会）

この場では中継は一旦中断になります。

○会員

今までの進んだ中で、約束されていたことが出来ていないので、それをどうされるのかなと、ちょっとお聞きしたかったのですが。

第8回の対話の場有的时候に、賛成・反対の意見を持つ有識者の話を聞く機会を7月ぐらいに設けたい、という話をされていたのですが、それが未だにされていないんですけど、それはどのようなのでしょうか？

○事務局（司会）

今のご意見ですけれども、当時いろんなご意見を頂きまして、その中には今、●●さんがおっしゃったようなご意見もありまして、早ければ夏ぐらいを目安に検討していきたい、という話は以前申し上げているところでした。ただ、その前にいろいろ「こういうことをやってみたい」というような別のご意見などもあり、いろいろご意見、ご相談をしながら今まで順序を決めてやってきたという経緯があります。決して、これが立ち消えになっているわけではなく、順番的に、フィンランドの町長に都合があるのでこの時期にやりますということなどで、毎回扱う題材を決めさせていただいてきていますので、これからの時期を見ながらやっていくように、来ていただく方々も含めて調整を進めてまいりたいと思います。決して立ち消えしたわけではありませんので、そこはまたご相談させていただければと思います。

○会員

はい、是非それはやっていただきたいなと思います。私この前、ハッピーロードネットの方が、寿都と福島の高校生が参加して、「未来につなぐまちづくり塾」というのでやっていらしたのですが、その事業報告会を YouTube で見ました。その中の高校生の発言の中で、やっぱり「教育が大事だ」ということをすごく言っているのですが、六ヶ所村などでは「小学校から学びができていて再処理を受け入れている」というような発言があったのですよね。私それを聞いて、福島の事故のあった後、私も福島に視察に行ったのですが、その時に聞いたのですが、原発が始まった時に、やっぱり福島でも「原発は安全で素晴らしいエネルギーだ」ということを教育の場でもやっていたわけですよね。そのなかで標語作りがあって、小学校 6 年生の男の子の作った「原子力 明るい未来のエネルギー」という標語が優秀賞ということで選ばれ、双葉町の入り口にその標語が書かれていた訳ですが、原発の後それは外されちゃうのですよ。事故の後。それには、その標語を作った、もう青年になってしまいましたけれど、「負の遺産として残してほしい」と言うのだけど、外されてしまうのですけれども、彼が言っているのは「原発で街がズタズタになった」ということを言っています。子供たちを、そういうふうに、原子力は安全という教育をしてきて、またそれが六ヶ所村なり、そういう所で同じ教育がされているのかなというのが、ちょっと私は心配になりました。高校生の報告を聞いていても、科学の視点がちょっと欠けているかな、と思いました。その辺も、きちんと高校生にも知ったうえで理解してほしいなと思ったのです。だから、是非やっぱり賛成とか反対の、そういう有識者の話を聞く機会を設けて、私たちが聴くときに、町民にも呼びかけようと言っていましたので、ぜひ高校生にも呼びかけて、そういう機会をなるべく早く作っていただきたいなと思います。以上です。

○事務局（司会）

ありがとうございます。シンポジウムというようなものを、たぶんイメージされていると思うのですが、ご意見に添うようなかたちで我々もイメージしておりますので、皆さんが聞けるようなかたちで調整が進められればなど、鋭意開催できるように努力していきたいと思います。

また、福島の高校生のこれまでの学びの話につきましては、これは我々が存知している話では

ありませんし、過去にどういうことがあったとか、今どういう事が行われているかについては、我々が主催しているものでもありませんので、そのことについて申し上げることはできないのですが、そちらは逆に、そういう交流をされてきた、例えば、寿都町の高校生ですとか、いろいろお話しする機会が今後あれば、その場で「どういうことだったのか」とかご意見を交わしたり、いろいろご指導をしていただければなと思います。ここはよろしくお願ひしたいと思います。

以上でよろしいですか。いろいろ高校生に語りかけてあげていただきたいと思いますね。よろしくお願ひします。

それでは、次の自由討議に移ってまいりたいと思います。ここからの司会進行は、ファシリテーター竹田先生にお願ひしたいと思います。竹田先生よろしくお願ひいたします。

大変申し訳ありません、マスコミ各社の皆さん、ここで一旦退出のお願ひをいたします。中継は一旦ここまでとなります。以上よろしくお願ひいたします。

では、竹田先生よろしくお願ひいたします。

< (2) ワークショップ 非公開 >

(3) 振り返り

○事務局（司会）

それではここから再び中継となります。ただ今より、竹田先生による本日の対話の場の振り返りを行います。

では、竹田先生よろしくお願ひいたします。

○ファシリテーター

北海道大学の竹田でございます。今日もファシリテーターを務めさせていただきました。

それでは、私から今日行われたことについてご報告したいと思います。今日は、第13回ということで対話の場が開かれました。18時半から19時50分までということで、今日のテーマ「将来の町の姿について」ということで自由討論をしました。どんな町にしたいかということテーマに話し合ったのですが、今日これからの流れなのですけれども、議論の進行イメージというのを作っています。「どんな町にしたいか？」という問いをきっかけにした思いを伝えていただきます。これまで六ヶ所村を見学されたり、幌延町に行ったりですね、エウラヨキ町長のご講演とか、いろんな情報を得ていますので、こういうのを踏まえたうえで、どんな町にしたいかという思いをいただくということをやりました。今後なのですけれども、こんな町だったらいいな、というようなスローガンのもの、それをちょっと考えていただいて、今後の活動をどういうふうにやっていったらいいか、ということにつながっていくうちの①の部分今日やりました。

今日やっていただいたのは、どちらかというと、これまで地層処分だとか地層処分の安全性だとかという話が前半部で多かったのですけれども、社会的、経済的影響、そういうところを考えていただくというのが今日の目的です。本当にいっぱい意見が出ました。なので、一つ一つの意見を私がここでしゃべってしまうと恣意性を感じられてしまうので、私からグループ化された、

このピンク色の付箋を説明します。ですから、どういう意見が出たかというのは、それぞれ皆さんが近くに寄って見ていただいて、こんな意見が出たのだな、というふうに見ていただいたほうがいいかなと思います。

まず、ここの部分。これは公開の部分で話されたことですので、この部分はちょっと除きます。

ここから向こうが非公開の部分です。どんな町にしたいか、ということのグループがここです。これは②にも関係しているのですけれども、もうすでにお考えいただいた部分です。ここの部分、ここに付いているのが、議論とか話し合い。今後どういう議論とか話し合いをしていったらいいのだというようなことが、ここに書かれています。

それからここですね、知りたいこと。こんなことを知りたいのだ、というのがここに書かれています。

ここから向こうが、経済とか産業の話なのですけれども、産業とか食とか雇用とか、そういうような問題がここに書かれています。それから漁業の部分ですね。それから、ここも産業の部分ですね。これから寿都がどういう産業を興していったらいいか、というようなことが書かれています。

それから、インフラ整備の部分がこの辺に書かれています。

それから、交付金をどういふふうに使っていったらいいのだ、という話。

それから、ちょっとこれがIターン、ワーケーションがすごく近いのですけれども、若い人のIターンUターンの話がこの辺に分類されています。

それから、観光。ここも1グループですね。やっぱり観光をどうしていくかというようなところがグループとしてあって、ワーケーション、こんなにいっぱい意見が出ています。寿都の町を使ってワーケーションしてくれるといいかなというところですよ。

それから、人口の変化の話がここちょっとあります。

それから、観光については、ニセコとの連携というのが6つくらい出ていますので、他の地域との連携ということで将来を考えるべきだというところがあります。

私が今回こういう話をずっとさせて頂いて、皆さん非常に和やかに本当に笑顔と笑いが出ながら議論していただいたということは非常にいい対話ができたのではないかなと考えています。

もう一つ言い忘れましたけど、今日はグループで分かれていただいていますので、3グループに分かれてこういう討論していただいたということでございます。細かいところは是非、皆さんのほうで見ていただいて、こういう意見があったのだな、とピックアップしてくれると嬉しいなと思います。

以上です。ありがとうございました。

○事務局（司会）

竹田先生ありがとうございました。今この場で、この内容につきまして竹田先生に是非これを伺ってみたいというご質問がある方がいらっしゃいましたら、挙手を頂けますでしょうか。大丈夫ですか？

○新聞記者

今日のこのまちづくりについての議論というのは、最終処分場の誘致を前提としたまちづくりということなののでしょうか？

○ファシリテーター

いえ、私を感じたところでは前提にしていない部分もたくさんあります。寿都町という町が今もっている課題というものを踏まえたうえでの議論ですので、別に地層処分というものを前提においての議論ではないと私は感じています。当然そういうものが入っていますし、そうではなく現状の課題を踏まえて議論いただいたのではないかと感じています。

○事務局（司会）

他に大丈夫でしょうか？

無いようですので、振り返りはここで終了したいと思います。先ほど竹田先生からご案内いただきましたとおり、細かい部分は今、話に出ていませんので、多少時間を取りますので、前に出ていただいても構いませんので、3分か5分ぐらいで映像を撮るなり眺めていただくなり、時間を取りますので、今の時間帯でお願いできればと思います。

以 上